

## 卒業論文要旨

外国語学部ドイツ語学科

A0752007 福田歩美

### 各アクターの協力にみる人々独自の発展 —インド・ダラヴィの事例から—

先進国に住んでいる私たちはスラムと聞くとどのようなことを思い浮かべるであろうか。高い人口密度、不衛生な生活環境、治安の悪い貧困地区というようにネガティブなものがほとんどなのではないだろうか。私たちにとってスラムというものは日常と切り離された世界、つまり広い地球のどこか遠い場所にあるもので私たちとは関係のないものという見方がほとんどである。つまり私たちはスラムに関して無関心なのである。そしてこの無関心がネガティブなイメージや見方を生み出し、また同時にそれらが無関心を生み出すというように、この両者は負の相互関係にあると言える。無関心なままの私たちが抱くこれらのイメージや見方は偏見に他ならない。2003年に出された UN-HABITAT<sup>1</sup>のレポート”The Challenge of Slums: Global Report on Human Settlements 2003”によると、今日スラムに暮らす10億もの人々の暮らしを改善するためにできることは多くあり、またそれらが実行されるべきであるとされ、そのためにはまず取り組む側の誤解や偏見が解かれるべきであるとされている。つまり政府や国際機関、NGOなどが、スラムとは実際にどういうものなのか、どうして存在するのか、そしてなぜ今後も増え続けていくと予測されているのか<sup>2</sup>などといったことを理解する必要があるということである。

本論文ではまずスラムがどのようなものであるかを概観し、さらにそこで人々がどのように暮らしているのかを詳しく述べる。そしてその暮らしを脅かす最大の要因である強制排除について説明し、その問題性を指摘する。次に強制排除からスラムに住む人々の居住権を守るべく活動しているインドのNGOである SPARC について紹介し、彼らが住民や政府その他のアクターとどのように関わりあいながら活動しているのかを詳しく述べ、さらに彼ら関わっているムンバイにあるスラム地区のダラヴィ再開発の事例を取り上げる。これは政府による再開発案が当初は民意を全く反映しておらず強い反発を招いたが、最終的には暴力による衝突ではなく住民と政府の対話による協力が達成されたことで修正が加えられ民意をかなり反映するものとなったのである。この一連の経緯を SPARC のニュースレターをもとに説明する。終わりににはなぜこのように対話による協力が可能となったのかを SPARC の活動姿勢とも合わせて考察しそれらを踏まえた上で、政府など外部による上か

---

<sup>1</sup> UN-HABITAT(United Nations Human Settlements Programme): 国際連合人間居住計画ケニアのナイロビに本部を持つ 1978 年に設立された国連総会の補助機関。すべての人々への十分な住居の提供と社会的および環境的持続性のある都市づくりを目標としている。

<sup>2</sup> 同レポートでは 2030 年にはスラムの人口が現在の 2 倍になるという予測がなされている。

らの発展ではなく、そこに暮らす人々自らが意識的に取り組み発展していくことの重要性を強調したそのような人々独自の発展とはどういうことであるのかを定義したい。

<主要参考文献>

UN-HABITAT 2007 Press Release on its report, "The Challenge of Slums: Global Report on Human Settlements 2003".

Diana Mitlin (1990), "SPARC: developing new NGO lines", *Environmental and urbanization* Vol 2, 91-104

Arputham, Jockin and Sheela Patel (2007), "An offer of partnership or a promise of conflict in Dharavi, Mumbai?" *Environment and urbanization* Vol 19, 501-508.

Arputham, Jockin and Sheela Patel (2008), "Plans for Dharavi: negotiating a reconciliation between a state-driven market redevelopment and residents' aspirations", *Environment and urbanization* Vol 20, 243-253.

Arputham, Jockin and Sheela Patel (2009), "Getting the information base for Dharavi's redevelopment", *Environment and urbanization* Vol 21, 241-251.